

JOT

Corporate Social Responsibility

社会とともに発展を遂げる企業であるために

CSR報告書 2014

社 名 日本石油輸送株式会社
Japan Oil Transportation Co.,Ltd.

所 在 地 東京都品川区大崎一丁目11番1号

設 立 1946年3月27日

資 本 金 16億61百万円

社 員 数 162名(2014年3月31日現在)

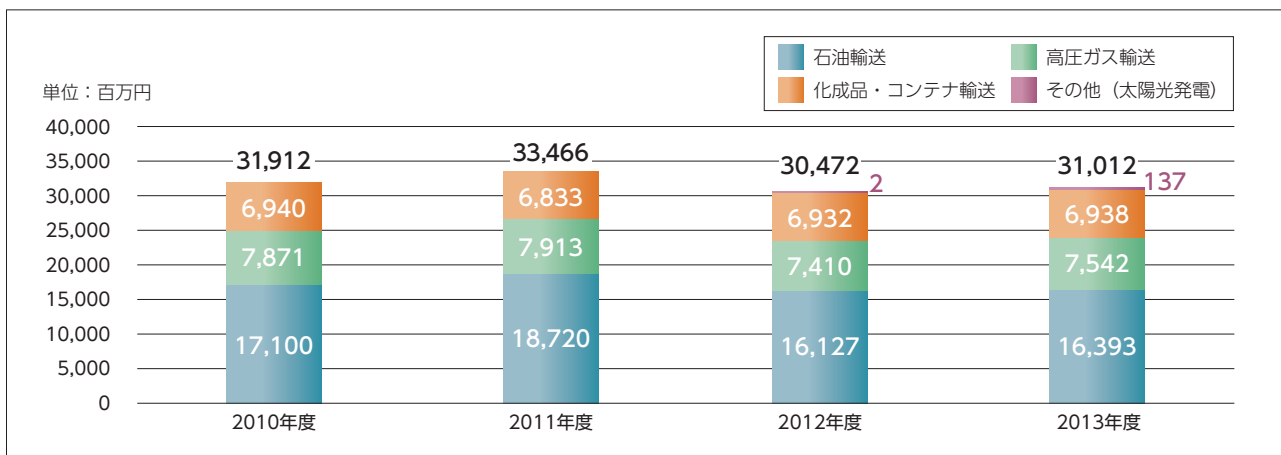
事 業 内 容 1. 石油製品(ガソリン・灯油等)の鉄道タンク車輸送・貨物自動車輸送
2. 高圧ガス(LNG等)の鉄道コンテナ輸送・貨物自動車輸送および複合一貫輸送
3. 石油化学製品等の鉄道コンテナ輸送・貨物自動車輸送ならびに国内および国際複合一貫輸送、各種コンテナのリース
4. 鉄道用冷蔵・冷凍コンテナ等のレンタル・リース
5. 太陽光発電事業

グループ会社 株式会社エネックス、近畿石油輸送株式会社、株式会社ニチユ、株式会社ニュージェイズ、株式会社JKトランス

CONTENTS

- 01 会社概要
- 02 特集【CSR座談会】
- 05 日本石油輸送のCSR
- 06 目標と実績
- 07 コンプライアンス
- 08 品質管理
- 09 安全
- 11 環境保全
- 12 人間尊重
- 13 社会貢献

財務ハイライト 連結売上高推移



● 編集方針

「CSR報告書2014」は、JOT(日本石油輸送)グループを支えてくださっているステークホルダーの皆様へ、JOTグループが取り組んでいる様々なCSR活動を広く発信することを目的に発行しています。

特集では、日本石油輸送株式会社の社長と若手社員による座談会の内容を掲載しております。

また、後半部分では、JOTグループのCSR推進テーマの項目ごとに、各活動の考え方、実績、取り組み内容事例について報告しています。

● 対象期間

原則として、2013年4月1日から2014年3月31日までを対象期間としていますが、一部、2014年4月以降の内容も含んでいます。

● 対象範囲

日本石油輸送株式会社およびグループ会社5社

● 発行時期

2014年6月(前回発行:2013年6月)

変化と向き合い社会に貢献する JOTグループへ



今回のCSR報告書では、「安全」、「人材育成」、「社会の課題と向き合う」をテーマに、森田社長と入社4～5年目の若手社員3名による座談会を行いました。自由闊達な雰囲気の中、笑いあり、白熱した議論ありと、大いに盛り上がりました。

安全はすべてに優先する

永井 JOTグループ・ミッションの一番目に掲げられるほど“安全”は重要なものですが、掛け声だけで終わらせてはいけないテーマですね。

森田 安全というと現場だけの問題と捉えがちですが、会社のトップから現場の従業員まで全員が一体となって取り組むべき課題であり、JOTグループの基本中の基本です。

鈴木 社長は、かつてグループ会社エネックスの社長も務められていましたが、2つの会社で安全の捉え方や対応に違いはあるのでしょうか。

森田 鉄道輸送が主力の日本石油輸送と、自動車輸送が中心のエネックスでは、少し力点は異なるかもしれませんが、「安全に安定的に輸送する」という基本スタンスは変わりません。

山田 私は、エネックスで運行管理を行っています。乗務員の仕事は朝早く出て、夜帰るといような不規則な仕事も多く、疲れて帰るのを目にしています。点呼などで乗務員とどう接するべきか、どのように声を掛けるべきか、戸惑うこともあります。経験不足と言われればそれまでですが…。

森田 乗務員の仕事は大変ですが、だから余計なことは話さないというのは間違いです。私の経験ですが、事故の少ない職場には、乗務員一人ひとりに歩み寄り、声を掛けている運行管理者がいます。「今日は顔色が悪いけど大丈夫かい」「帰ったらゆっくり休みなよ」といった声掛けができています。

鈴木 家族のような気遣いですね。

森田 そう、家庭と同じです。人間だから話したくない日もあると思いますが、小さな心遣いや思いやりで人は元気が出るし、安心もする。もちろん叱るべきときは叱る、褒めるときは褒めるといったことも、当たり前でできないといけません。

永井 JOTグループは危険物という特殊なものを運んでいます。事故を未然に防ぐためにも、従業員同士が気軽に話し合える雰囲気は大事だと思います。そのような風通しの良い職場であれば、何か起きたときにきちんと報告が上がり、隠蔽といったことも起きにくいですね。

森田 危険物は普通の荷物とは全く違います。荷主であるお客様は私たちが信頼して仕事を依頼してくれます。JOTグループならきちんと届けてくれるという信頼、その背景には必ず安全があります。

入社時の研修から安全教育を徹底したり、安全標語の募

集などを行うことで、日常的に「自ら安全を意識する」ことが大切です。今後もそのきっかけの場を提供していきたいと考えています。

鈴木 以前、総務部に勤務していたとき、タンクローリーの幅寄せに関するクレームの電話がありました。

森田 LNG（液化天然ガス）などを輸送するタンクローリーは長さが17メートルもある大型車です。普通に走っているだけでも周りに威圧感を与えてしまいます。

山田 一般の方からすれば、普通の車間距離で車線変更をしても「危ない」という風を感じるかもしれません。乗務員も非常に気を使っています。

永井 安全から運転マナーまで話は及びましたが、こうすれば事故は無くなるという答えはあるのでしょうか。

森田 会社のトップから現場の従業員まで一人ひとりが問題に取り組み、そうしたことを一つひとつ積み重ねていくしかないのです。それぞれが内なる“安全”を自らに問いかけ、日々の業務に邁進してほしいですね。

JOTグループを支えるのは“人” 一人ひとりが成長を手にしよう

永井 少子高齢化の影響か、あちこちで人手不足という話を耳にします。

森田 人手不足は広がっています。JOTグループでも乗務員の確保に頭を悩ませています。石油製品の輸送には季節変動があり、ピークの冬に合わせると夏場は人も車も余ってしまいます。通年で優秀な人材を採用するために、勤務時間・場所や給与の在り方などについて検討しています。

鈴木 人手不足といえば、その対策として女性の活躍推進が挙げられています。輸送という業務の性質上、なかなか集まりにくいかもしれませんが、この会社は産休や育休制度も整っており、女性が長く勤められる職場です。いまも5~6人がこうした制度を使って仕事を続けています。



日本石油輸送
経理部
永井 隆一
(入社5年目)



日本石油輸送
代表取締役社長
森田 公生

森田 産休・育休制度を充実させ、女性にとっても働きやすい職場作りを目指しています。ただ、私自身は男女という性差や学歴などでカベを設けようとは思いません。男女・学歴などに関係なくキャリアを積み上げてもらいたいと思っています。ところで鈴木さんは海外事業室ですが、いつか外国人の同僚をもつという時代が来るかもしれませんね。

鈴木 海外事業室では海外とのやりとりも増えています。私は週2回、英語研修に行かせてもらっていますが、まだまだ勉強しないとイケません。

森田 海外への事業展開は、各部門にも新しい知識・能力が求められます。総務は契約、経理は為替への対応、システムだって海外対応しなければいけません。人事も様々な能力を持った人材の採用という新たな課題があります。

永井 人材育成では部門のカベを取り払うことも課題のひとつかもしれません。管理、営業、グループといったカベを越えて人的交流が進めば、仕事の理解も深まります。基本的にはうまくいっているとは思いますが…。

森田 いや、私自身はまだまだだと思っています(笑)。部長たちには「自部門のことだけを考えてはいけない」と言っています。垣根を取り払って人間の交流をしないと、強い結束は生まれません。

山田 日本石油輸送の従業員がグループ会社の石油タンクローリーに添乗する研修があると思います。相互理解を深めるために、グループ同士の業務交流がもっと増えれば良いのではないのでしょうか。

森田 私自身はこの会社で20カ所ほど部門を変わりました。知ることによって自分の仕事の領域も広がるため、無駄だった経験はひとつもありません。若い人たちが「こういう仕事をしたい」と思ったら、自分たちで企画するのもいいかもしれません。どんな仕事にもまず興味をもって取り組むこと。いまの仕事に意欲を燃やし続けることができれば、おのずと将来も拓けていくと思います。

社会のニーズに合う JOTグループの新しい役割を見つけよう

山田 海外で旅客船が沈没するという痛ましい事故が起きました。原因のひとつとして「過積載」という問題がクローズアップされていますが、法令遵守の大切さを痛感しています。

森田 私たちは危険物を取り扱っているわけです。もし、法令を無視して事故でも起こしたら厳しい目が向けられるでしょう。信頼が揺らぐどころか、企業の存続が問われかねません。

山田 輸送に対するお客様の認識にも変化が見られるのでしょうか。

森田 東日本大震災のあと、輸送に対する社会の認識が変わりました。これまでは製品を〈作る・売る〉だったものが、〈作る・運ぶ・売る〉という発想に変わりました。震災では各地でライフラインが止まりましたが、輸送の大切さをお客様も私たちと同じ目線で見始めています。我々の仕事の位置づけが上がっているのと同時に、それだけ責任も増しているわけです。

永井 社会的には環境問題への関心も高まっています。JOTグループもこれまで以上に、こうした変化に合わせていかなければならないと思います。

鈴木 事業開発室では、太陽光発電、新エネルギー輸送、レンタルスペース、軽量コンテナなどの新しい事業に向けた課題に取り組んでいます。

森田 昔の日本石油輸送を知っている方々が、いま私たちが取り組んでいることを知ったら腰を抜かすかもしれません。与えられた仕事をきっちり間違いなくやるというのが伝統的な企業風土でしたから…。これからは一歩も二歩も前に踏み出していかないと、持続的な成長はありえません。

鈴木 海外に進出するという決断のきっかけは何だった



日本石油輸送
事業開発室兼
海外事業室
鈴木 ソリス
(入社4年目)

エネックス
関東LNG支店
根岸営業所
山田 雅之
(入社4年目)



のでしょうか。

森田 少子高齢化で国内の輸送ニーズは小さくなっています。私たちのお客様も海外に進出しています。お客様から「海外輸送はしないのですか」という話を頻繁にもらいました。お客様は我々を信頼して、そういう話を持って来てくれます。そういう声には応えたいですね。こうした動きを皆さんはどう見えていますか。

永井 リスクをとって挑戦しているのだと思っています。石橋を叩いても渡らない、というのがこれまでのJOTグループのイメージでしたから…(笑)。

森田 叩いて渡らないだけならいいけど、石橋を叩き壊したりするんだよ(笑)。リスクを取らないで新しいビジネスは生まれません。リスクを最小に止めつつ、新しい分野に飛び出そうというわけです。

山田 どの地域の事業を検討されていますか。

森田 中国、韓国、台湾、日本の4カ国が当面の舞台です。将来的には東南アジア全域を視野に入れています。私たちのお客様が何をやろうとしているのか、じっくり見極めるとともに、変化を察知したらスピード感をもって対応していくことが必要です。

永井 経理の立場からすると、皆さんが安心して働けるよう、資金的な基盤づくりで活躍できればと思います。

山田 今日JOTグループの動きや皆さんの話を聞いて、とても視野が広がった気がします。

鈴木 社長は社内の雰囲気気に気を使ってくださっているのがよく分かりました。私たちも努力して、従業員同士の連携を強めていきたいと思いました。

森田 JOTグループは小さな企業体だけに、お互いが身近な存在であることが強みです。経営トップとしては、これからもスピード感をもって決断し、たえず先頭を走るつもりです。

皆さんも、社是やJOTグループ・ミッションを心に留め、それぞれの職場で明るく元気一杯に働き、明日のJOTグループを一緒に盛り上げていきましょう。

JOTグループは、社会から必要とされ、社会とともに継続的な発展を遂げる企業を目指し、「社是」、「JOTグループ・ミッション」を“道しるべ”としてステークホルダーの皆様に対して社会的責任を果たしてまいります。

社是
奉仕こそ我が務め
(Service is my business)

●ポイント

社是の意味するところは、

「企業は単に利潤を追求するだけではなく、業務を通して社会に奉仕するという高い理想を掲げるべきであり、そうした経営理念に支えられた企業のみが社会での存立の基盤を与えられ、発展を許される」という企業観に根ざすもので、1952年に制定されました。

JOTグループ・ミッション

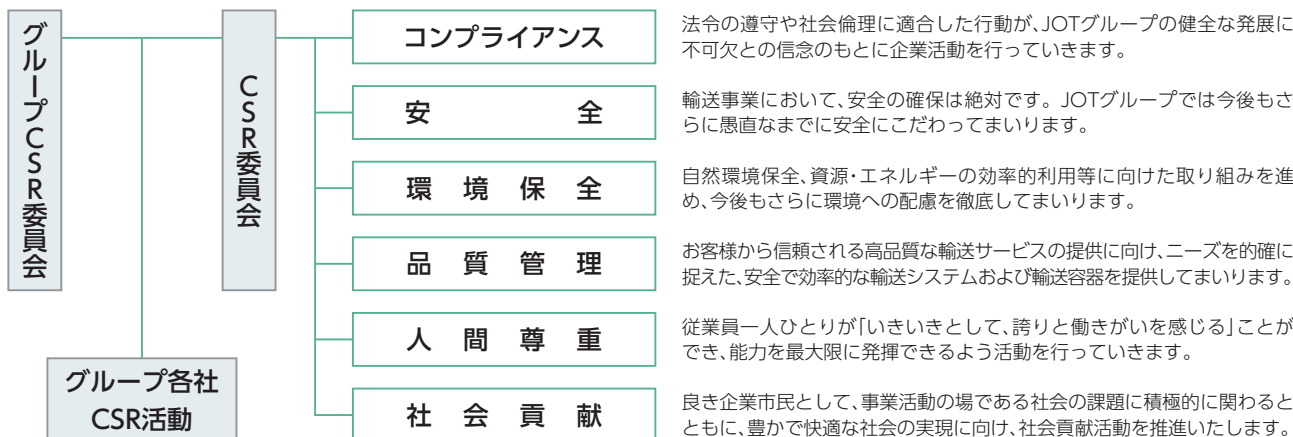
私たちJOTグループは、会社と仕事に誇りを持ち、5つのミッションを成し遂げて社会の発展に寄与いたします。

- ① **安全** セーフティ1st・安全を仕事の中心に徹します。
- ② **フェア** 遵法精神と社会的良識をもったフェアな企業活動を行います。
- ③ **信頼** 最高の商品と輸送サービスを提供し、お客様からの信頼を得ます。
- ④ **チャレンジ** チャレンジ精神で新分野や新商品を開拓し、社会と社業の発展を目指します。
- ⑤ **ハーモニー** 自然環境保護に努め、社会貢献活動を通じて社会との調和を図ります。

6つのテーマを一体的に展開し、CSR全体のレベルアップを目指しています。

日本石油輸送は、ステークホルダーからの信頼をさらに強固なものとするため、CSR委員会を中心に、6つのCSR推進テーマを設定し、一体的に展開しています。

また、グループ各社もCSR活動を実践しており、グループ一体となってCSR活動を推進するためグループCSR委員会を設置しています。



定期的に活動を評価し、 PDCAサイクルで取り組みを進めています。

日本石油輸送のCSR活動は、社長を委員長としたCSR委員会で、年度ごとの活動実績とそれに基づいた次年度の計画を報告し、討議を行っております。

この計画に基づいて、CSR活動を推進し、半年ごとのCSR委員会でそれぞれのテーマの進捗状況を確認しています。2013年度の活動実績と2014年度の計画は4月17日のCSR委員会にて報告されました。

テーマ	2013年度の目標	実施項目	2014年度の目標・計画
コンプライアンス	リスク低減への取り組み	リスクの整理と再評価 関連法規の再確認	リスクの整理と再評価 グループも含めたリスク評価 関連法規の再確認
	情報管理に対する取り組み	個人情報保護台帳の更新整備 ソーシャルメディアガイドラインの制定	個人情報保護台帳の更新整備 ソーシャルメディアの適切な利用に向けた活動の推進
	内部通報制度充実に向けた取り組み	制度の見直し(外部通報窓口の新設) 社内報・社内イントラによる制度の周知	社内報・社内イントラによる制度の周知
	コンプライアンス意識向上への取り組み	コンプライアンスチェックによる意識の定着度 の確認とフォローアップ	コンプライアンス意識の向上にあたり、チェック結果を踏まえた対策や啓発活動に取り組む
	インサイダー取引規制の周知徹底等の テーマ別取り組み	社内報・社内イントラを用いたインサイダー取引 規制等に関する教育活動	理解度・認識の弱い部分の改善に向け、教育活動に 取り組む
安全	安全な職場環境づくり	全国安全パトロールの実施 事故調査委員会・安全外部監査等の実施 グループ各社における安全性優良事業所の認 定取得	安全な職場環境づくりを継続的に推進するために、 全国安全パトロールの実施や、安全外部監査等を実 施し、グループ一丸となって取り組む
	安全活動の全国展開と安全意識の共有化	全国安全委員会の開催 グループ統一安全活動の実施	全国安全委員会やグループ安全会議を通じて安全活 動の全国展開と安全意識の共有化を図る
	安全教育の実施	安全推進者合同研修会の開催 危機予知・事故回避教育の実施	安全推進者合同研修会等の開催や事故回避に向けた 教育活動を実施し、安全意識の向上を図る
	運輸安全マネジメントの取り組み	グループ各社において、PDCAサイクルに則った 継続的改善の実施	運輸安全マネジメント体制の充実を図る
環境 保全	ISO14001による 環境マネジメントの維持、推進	ISO14001認証継続 マネジメントレビューの開催	環境マネジメントシステムの維持・推進に努める
	モーダルシフト推進による環境負荷の低減	鉄道貨物輸送の推進	モーダルシフトを推進し、環境負荷の低減を目指す
	環境保全活動の推進	チャレンジ25キャンペーンへの参加 エコドライブキャンペーン活動 グループ各社におけるグリーン経営認証の取得	チャレンジ25キャンペーンに継続参加し、さらなる 環境負荷の低減を図る エコドライブキャンペーンをはじめとする環境保全 活動をグループ全体で推進する
品質 管理	【品質管理委員会】 当社取り扱い輸送品目、また、将来取り扱 う可能性のある輸送品目の輸送手段・輸 送容器の調査・研究	【品質管理委員会】 当社の輸送容器に関するメンテナンス・洗浄設備 の見学(メンテナンスセンター) 新エネルギーや新輸送容器の調査・研究	【品質管理委員会】 国内輸送および国際輸送における物流・ロジスティ クスシステムの調査・研究
	【ISO9001】 元請輸送におけるトラブルの撲滅と輸送 容器のメンテナンス強化	【ISO9001】 作業実態の把握による手順の見直し 委託業者へのヒアリング 輸送容器の定期検査	【ISO9001】 元請輸送におけるトラブルの撲滅と輸送容器のメン テナンス強化
人間 尊重	人権啓発の促進	人権に関する意識実態調査等によるハラスメン トの防止に向けた取り組み	ハラスメント防止を重点課題とし、人権意識高揚の ための取り組みを継続する 障がい者雇用の取り組み
	ワークライフバランス実現	健康増進に向けた取り組み 有給休暇取得促進・定時退社推進日の実施等によ る時間外労働の削減への取り組み	健康増進に向けた取り組み、ワークライフバランス の観点から時間外労働の削減等、効率的な業務の推 進を継続する
	従業員のキャリア形成と能力支援	次世代育成のための教育プログラムの実施 グループベースにおける人事交流と研修の実施	教育プログラムの充実やグループベースの人材交流 や研修を継続して実施する
社会 貢献	企業としての支援の実施	視覚障がい者支援：盲導犬育成団体への寄付、体 験型活動 次世代育成支援：事務所近隣の小学生に対する黄 色い帽子・傘の寄贈	援助を必要とする人々や団体への継続的な支援を行 うことを念頭に置き、活動の充実を図る 寄付だけでなく、より理解を深めるため、体験型活動 も取り入れる
	ボランティア活動	収集ボランティア、地域のイベントや事務所近隣の 清掃活動実施等により、地域社会との交流を実施	より多くの従業員が参加できるように、誰でも気軽 にできるボランティア活動を継続する
	環境保全活動	環境保全に向けた支援として、神奈川県主催の 「森林再生パートナー制度」に参加 森林整備ボランティアを実施	寄付だけでなく、より理解を深めるため、体験型活動 を重点的に実施する

従業員にとって、より身近なコンプライアンス活動を目指すための教育・啓発活動と仕組みづくりを行っています。

CSR経営を推進していくうえで最も重要なことは、法令や社内ルールはもとより、社会規範を遵守することです。JOTグループでは、企業行動の基本方針を表した「社是」、「JOTグループ・ミッション」を制定し、すべての役員・従業員がこれを理解し、確かな倫理観に基づく行動が取れるように、名刺サイズのミッションカードを携帯しています。



ミッションカード

1 リスクマネジメント

日本石油輸送では、会社が抱える多種多様なリスクを総合的に把握し、事業運営に重大な危機が発生した際のリスクの顕在化の予防と、万一の緊急事態が発生した際も被害を最小限に抑え、迅速に事業を継続させることを目的に、リスクマネジメントに取り組んでいます。

また、事業に関連する法令・規則等をリストアップした「関連法規一覧表」についても、毎年更新を行っています。

2 情報管理に対する取り組み

個人情報保護法に則った規程の整備や、日本石油輸送が保有する個人情報を「個人情報保護台帳」で管理し、定期的に更新する仕組みを運用しています。

2013年度は、近年急速に普及しているソーシャルメディアに関し、利用する際の基本的な考え方や留意点をまとめたガイドラインの制定を行いました。今後は、JOTグループの従業員に対し、ソーシャルメディアの適切な利用に向け啓発活動を行っていきます。

3 コンプライアンス教育

コンプライアンス活動を推進するためには、従業員一人ひとりの意識の向上を図らなければなりません。そのために日本石油輸送では各種研修時に各層の実態に即した教育を継続して実施しています。また、顧問弁護士による講演会を実施するなど、意識向上を図っています。



コンプライアンス講演会

4 内部通報(ヘルプライン)への取り組み

JOTグループ各社では、企業活動に伴うリスクの早期発見と未然防止の観点から「内部通報制度」を定め、従業員に向けて、社内報やイントラネットなどで周知しています。

2013年度は、より利用しやすい制度を目指し、2014年1月1日より、従来の社内通報窓口に加え、社外通報窓口(弁護士事務所)を設置いたしました。

なお、通報された内容については、事実関係を調査のうえ、適切に対応し、通報者に対する不利益な取り扱いを禁止しています。

5 コンプライアンスチェック

日本石油輸送では、毎年、従業員全員を対象に「コンプライアンスチェック」を実施し、コンプライアンスに対する意識の定着度を確認し、効果的な活動の展開に役立てています。

今後もコンプライアンス活動の着実な実施と意識を深めるべく継続して実施します。

お客様に信頼される高品質な輸送サービスの提供を目指します。

1 品質管理委員会

2013年度は、活動テーマを「日本石油輸送における輸送手段や輸送容器の調査・研究」とし、メンテナンス拠点の視察や新エネルギー、新容器および新サービスに関する勉強会等の実施により、品質管理に対する認識を高めました。



メンテナンス拠点の視察



新容器に関する社内勉強会

参加委員の声

新エネルギーの勉強会は、常日頃エネルギーを輸送している日本石油輸送にとり、仕事に直結する内容であり、各人が今後気に掛けるテーマを認識するきっかけになったと思います。(化成品部)

新容器*に関する勉強会は、日常業務において日本石油輸送の資産の開発・運用状況について触れる機会がないため、とても貴重な時間となりました。(情報システム部)

*新容器…軽量コンテナ、蓄冷式コンテナ (ECO COOL)、防振コンテナ

メンテナンス拠点の視察では、人員の世代交代の時期を迎え、引継ぎや業務習熟にいかにか苦心しているかが窺え、「技術の継承」の大変さを再認識しました。(人事部)

2 品質マネジメントシステム/ISO9001に基づく高品質なサービスの提供

日本石油輸送は、化成品コンテナのリースおよびそれに関わる様々な輸送サービスを提供する化成品部門において、品質マネジメントシステムの国際規格ISO9001の認証を取得しています。

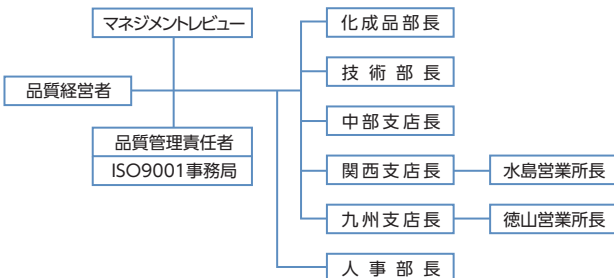
1 品質方針

- 1) 安全・安定輸送を通じて社会に貢献する
- 2) お客様に信頼される輸送商品をご提供する
- 3) ベストミックスな輸送システムをご提案する

2 2013年度品質方針

- 1) 元請輸送におけるトラブル撲滅
- 2) 輸送容器のメンテナンス強化

3 組織図



3 品質向上への取り組み

日本石油輸送の石油部門では年1回の「タンク車自主点検」により、タンク車のバルブ・内部状態・外装・パッキン等消耗品のメンテナンスを実施しています。化成品部門では、新造から一定期間以上が経過し、外観の劣化が著しいコンテナは「リファビッシュ*」を行い性能を維持しています。LNG部門では高圧ガス保安法に基づく容器再検査をグループ企業内でも行っています。また、コンテナ部門では、お客様により綺麗なコンテナをご利用いただくため、定期的な庫内清掃を行い、「コンテナ美化」に取り組んでいます。

各部門とも容器メンテナンスの徹底を図り、品質の維持・向上に取り組んでいます。

*製造後10年経過を目処に、劣化した断熱材の取替え等の機能維持と経年による汚れが目立つ外装材の全面取替え・再塗装を行うことです。



タンク車の自主点検



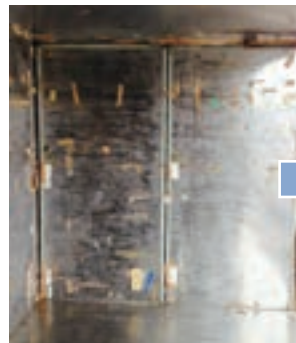
LNGコンテナの容器再検査



化成品コンテナのリファビッシュ



冷蔵コンテナの外観



冷蔵コンテナの庫内清掃

日本石油輸送の安全活動基本方針

スローガン

「勝ち取ろう SAFETY 1stで 顧客の信頼」

基本方針

- ① 輸送品質を高めお客様のブランド向上・信頼に応える
- ② 法令と基本作業を守る

目標

- ① 連絡車事故ゼロ
- ② 労働災害ゼロ
- ③ 協力会社事故ゼロ



具体的活動内容

1 安全強化月間

日本石油輸送は、お客様に安全な輸送サービスを提供するため、「安全」に取り組む強化月間を設定しており、毎年7月に安全活動の一つひとつを再確認しています。取り組みの一つとして、事故撲滅を掲げ、各所の労働災害や事務ミスを防ぎ、現場へ赴き、「全国安全パトロール」を実施しています。

2013年度全国安全パトロール実施場所

- 関東支店袖ヶ浦営業所、関西支店百済営業所
(計2ヶ所：7月実施)



2 全国安全委員会の開催

日本石油輸送は安全活動を徹底させるため、安全委員をはじめ各支店・事業所の安全推進者が集まり、安全確保に向けた重点施策を構築すべく、「全国安全委員会」を開催し、安全活動の取り組みの強化を図り、活動しています。



3 協力会社訪問ヒアリング

日本石油輸送は、2012年度より「協力会社訪問ヒアリング」を実施しています。協力会社の方々に対し、日本石油輸送の安全に対する考え方や方針・活動をご理解、ご協力いただけるよう取り組んでいます。



グループ会社の安全活動基本方針

スローガン

「安全を仕事の中心に SAFETY 1st」

基本方針

- ① 輸送品質を高めお客様のブランド向上・信頼に応える
- ② 「運輸安全マネジメント」体制の充実を図る
- ③ 法令と基本作業を守る
- ④ 隠蔽行為を防止する

目標

- ① 混油事故ゼロ
- ② 追突事故ゼロ



1 安全外部監査の実施

グループ安全対策本部では、決められたルール・手順を徹底するとともに、事故の未然防止を図るべく、グループ全車庫を対象とした「安全外部監査」を実施し、安全で確実な作業が一つひとつ忠実に実践されていることを確認しています。



『荷卸訓練立会い』エネックス苫小牧営業所

2 実務知識研修会 『日常点検のポイント』

JOTグループでは、車両設備の不備による事故を未然に防止するため、車両構造を理解し、点検技術を向上させる知識教育を実施するとともに、日常点検の徹底に向けた取り組みの一つとして、研修会を実施しています。



3 安全推進者合同研修会

JOTグループの安全推進者が集合し、安全活動の要を担う者としての役割を再認識し、グループの安全風土を確立することを目的として、2日間にわたる研修を実施しています。



車庫長会議の実施 [エネックス]

エネックスでは、全国21車庫の要となる車庫長が、安全を確保したうえでどのように輸送品質を向上させ、お客様から評価をいただけるか等、車庫長としての責務を遂行し、共通認識を図ることを目的とした「車庫長会議」を実施しています。



エネックスの安全目標である『事故件数の前年比50%削減』に向け、グループ討議ならびに外部講師による講演を通じ、管理者の責任や役割を改めて理解したうえで、各所の実態に即した知識の共有を積極的に行っています。

2013年度グループ安全標語

『上手くやるより確実に
早くやるより安全に
指差呼称で安全作業』



自分を奮い立たせるために考案したこの標語で、仕事と共に成長していきたいと思っています。

●エネックス 袖ヶ浦営業所 木嶋 保彦

地球環境に配慮した経営を「モーダルシフト」で推進しています。

1 環境基本理念に基く環境マネジメント

日本石油輸送は環境基本理念・環境基本方針のもと、事業を通じた環境保全への貢献に積極的に取り組んでいます。

環境基本理念

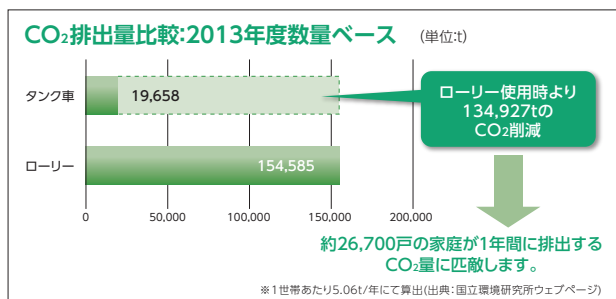
人類が自然環境と共存していくために地球環境の保全は世界共通のテーマであり、環境に配慮しない企業は存続しえないとの認識に立ち、あらゆる活動を通じて、自然との調和に努め、環境負荷の低減を図り、継続的に環境保全活動を推進する。

基本環境方針

- ① 環境関連法規の遵守
- ② 自然環境保全
- ③ 資源・エネルギーの効率的利用
- ④ 循環型経済社会の実現
- ⑤ 環境マネジメントシステムの継続的改善
- ⑥ 環境方針の周知と公表

2 環境に優しい鉄道輸送

日本石油輸送は会社創立以来、「環境に優しい鉄道」を輸送手段とし、生活や産業を支えるエネルギーや製品を輸送しています。2013年度に当社タンク車が輸送したガソリン、灯油等の石油製品は約628万KLです。これは、一般的なタンクローリー（20KL）の31万台分の輸送量に匹敵し、タンクローリー使用時と比較しておよそ13万tのCO₂を削減できました。



3 環境に配慮した輸送容器の提供

日本石油輸送は輸送容器の環境配慮も積極的に進めています。部材・構造の見直しにより、従来の保冷性能を維持したまま、70kgの軽量化を実現した「軽量型12ft URコンテナ」を開発し、輸送時の燃費向上に貢献しています。また、環境省からモーダルシフト実証事業として委託を受け、環境に優しい低温輸送を実現する、蓄冷式コンテナ「ECO COOL」を新造しました。



軽量型12ft URコンテナ



蓄冷式コンテナ「ECO COOL」

4 エコルールマーク事業への協賛

日本石油輸送では、環境に優しい鉄道輸送に取り組んでいる企業として「エコルールマーク[※]」事業に協賛しています。

※環境に優しい鉄道輸送に取り組んでいる企業や商品と認定された場合に、その商品やカタログ等につけられるマークのことです。日本石油輸送は鉄道輸送用コンテナを所有している企業として、初めて協賛企業に認定されました。



グループの環境保全活動

自動車輸送には化石燃料が不可欠なため、環境負荷は決して低くありません。鉄道輸送部門との連携だけに留まらない積極的な環境保全活動を行っています。

1 「グリーン経営認証」を取得

JOTグループの自動車部門全体で28事業所が「グリーン経営認証[※]」を取得しています（2013年度末時点）。また、初年度登録より10年継続して認証登録された事業所として、近畿石油輸送大阪支店が永年登録事業所表彰を受賞しました。



※「グリーン経営認証」は、交通エコロジー・モビリティ財団が、国土交通省、全日本トラック協会の協力を得て、トラック事業者が環境保全活動を自主的に進めていくためのマニュアルを作成し、グリーン経営の普及を推進する制度です。

2 「エコドライブキャンペーン」の実施

グループ統一の活動の一つとして、毎年「エコドライブキャンペーン」を実施し、アイドリングストップや急発進・急停止の抑制など、環境に配慮した運転を通じ、燃費の向上に努めました。

仕事も全力。人生も楽しむ。従業員の働きがいと健康や幸せを本気で考える企業でありたいと願っています。

1 「個の尊重」を主題とした人権啓発の推進

人権啓発の推進にあたって、2013年度は人権全般への意識向上、働きやすい職場環境づくりをテーマとして取り組みました。従来の「人権に関する意識・実態調査」に加え「職場環境アンケート」を実施し、ビデオ視聴によりコミュニケーションの重要性を認識し、働きやすい職場環境の実現を目指しました。



人権啓発ビデオ視聴

2 こころと身体の充実と健康管理

従業員の健康管理に向けた取り組みとして、健康診断の完全実施により生活習慣病を予防し、健康を増進する「健康チャレンジキャンペーン」を継続実施、意識付けを行いました。

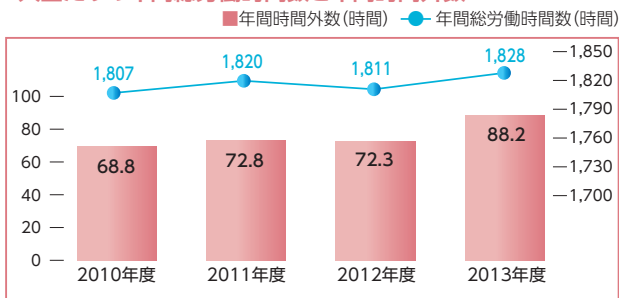
またこころの健康のためにメンタルヘルスカウンセリングも設置しています。

3 ワークライフバランスに向けて

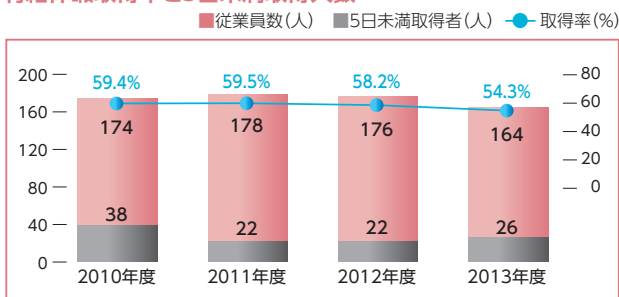
年間総労働時間1,800時間を目標として、時間外労働の削減、有給休暇取得促進を進めました。時間外労働の削減に向けて定時退社推進日の設定を継続し、また有給休暇取得促進に向けても、平均有給休暇取得率65%を目標に掲げ、計画取得・取得できる環境づくりに取り組んでいます。

また、仕事と生活の両立支援として、育児短時間勤務制度を導入し、育児休職から復帰後に、1日最大2時間短縮する制度を実施しています。毎年、復帰した従業員が本制度を利用し、ワークライフバランスに向けた取り組みを着実に進めています。

1人当たりの年間総労働時間数と年間時間外数



有給休暇取得率と5日未満取得人数



4 人事諸制度の整備

社宅制度を見直し、新社宅制度に2013年度中に完全移行しました。

5 人材育成プログラムの充実

次代を担う若手・中堅社員の早期育成、かつ、従業員全体の専門能力を高めるために、OJT、OFF-JT、自己啓発支援を有機的に組み合わせた教育プログラムを実施しています。

米国留学も新しい大学への派遣となり、また業務拡大に向けて通関士の資格取得にも取り組んでいます。

■ 集合型研修

	2011年度	2012年度	2013年度
マネジメント研修	3名	3名	3名
管理者研修	11名	11名	11名
中堅社員スキルアップ研修	-	12名	12名
営業力向上研修	11名	12名	-
新入社員研修	4名	3名	3名

■ 自己啓発(通信教育受講者数)

	2011年度	2012年度	2013年度
通信教育受講者数	81名	78名	74名

■ 主な資格取得

	2013年度取得者数	累計取得者数
高圧ガス製造保安責任者	1名	50名
危険物取扱者(乙種4類)	4名	166名
運行管理者(一般貨物自動車運送事業)	4名	75名
防火管理者	4名	60名
酸欠乏危険作業主任者	5名	75名
通関士	1名	1名

育児休職・短時間勤務制度利用者の声



人事部 岡田 直子

約一年半の育児休職を経て、4月より復職しました。休業中は沢山子どもと触れ合い、充実した毎日を過ごすことができました。復職してからは短時間勤務のおかげで、子どもとゆっくり過ごすことができている。支えてくださる周りの方への感謝の気持ちを忘れずに、仕事と子育てとの両立を頑張っていきたいと思っています。



育児休職・短時間勤務制度利用者の声



経理部 原 亜衣子

1年間の育児休職を経て、4月に職場復帰しました。休職中は育児に奮闘する一方、職場とは違った社会とのかかわりもあり、今後に活かせる視点をもつことができました。復帰後は育児短時間勤務制度を利用し、仕事と育児の両立をはかっています。精神的にゆとりがあることで、毎日元気に仕事をすることができています。



社会とともに生きる企業グループとして、 日本石油輸送らしさを生かした社会貢献活動を進めます。

日本石油輸送では、社会と共生することができる企業グループとして、部門横断的なメンバーで構成される「社会貢献委員会」での議論・検討のもと、全員が主体性をもって、“日本石油輸送らしさ”を生かすことができる社会貢献活動に取り組んでいます。

社会とともに生きる企業グループとして相応しい社会貢献活動の展開 ～JOTグループの事業と関係が深く、主体性を発揮できる活動を目指して～

- ① JOTグループらしさを生かすことができる社会貢献の実施
- ② 従業員が主体性を持って参加できる社会貢献の実施
- ③ 社会の一員として、地域に根ざした社会貢献の実施

1 障がいを持つ方への支援活動

JOTグループでは、輸送事業に携わる企業として、目の不自由な方が安全に道路を利用していただきたいとの願いをこめ、盲導犬の育成・訓練・歩行指導を行っている公益社団法人アイメイト協会と公益社団法人日本盲導犬協会への支援を継続して行っています。

また、従業員が両協会を訪問し、盲導犬利用者の話を聞くことに加え、盲導犬との歩行等も体験するなど、目の不自由な方に対する理解を深める活動も行っています。



アイメイト協会への贈呈式



日本盲導犬協会における目隠しをしておける体験歩行

2 次代を担う子どもたちへの育成支援

わが国の将来を担う次世代の育成のために、日本石油輸送では学童を交通事故から守る黄色い帽子や傘を寄贈する活動を25年以上継続して取り組んでいます。

2013年度においても黄色い帽子や傘を本社・各支店近隣の小学校計5校、のべ345名の子どもたちへ寄贈しました。



仙台市立東宮城野小学校への黄色い帽子の贈呈

3 収集ボランティア活動

従業員に気軽に参加してもらおう活動として、NPO法人や社会福祉団体等の取り組みへ協力し、収集ボランティア活動を継続して行っています。

2013年度実績	
ペットボトルキャップ	36kgをエコキャップ推進協会へ寄贈し、世界の子どもたちへポリオワクチン18本分の支援をすることができました。
使用済み切手	715gを品川社会福祉協議会へ寄贈し、その売却益が、品川区内の老人用杖の購入に充てられました。
ベルマーク	1,574点をベルマーク財団に寄贈し、養護学校など支援が必要な学校の備品購入に充てられました。

4 環境保全活動

環境に配慮した社会貢献活動として、神奈川県が森林の豊かな恵みを次世代に引き継いでいくため取り組んでいる「かながわ水源の森林づくり」の「森林再生パートナー制度」に2011年3月より参加しています。

本制度は森林を整備するための寄付だけでなく、間伐、下草刈り、枝打ち等の森林を保全する活動を自らが体験することで、森林のはたらきやその重要な役割に関する理解を深めておりますが、2013年度もグループ従業員やその家族によるボランティア活動を行いました。



竹林整備の様様

●神奈川県足柄郡松田町にて開催された「やどりき水源林のつどい」に従業員とその家族が参加し、水源の森林づくりへの理解を深めました。

参加者の声

総務部 寺本 卓磨

環境保全活動と聞くと、固く構えがちですが、実際に参加してみると、木の匂う山を歩いたり、川に住む水生生物の観察をしたり、自然と触れ合う楽しい活動でした。いきものによって水源林がいかに大切かを改めて学ぶことができました。



5 地域に根ざした社会貢献活動

本社や支店・事業所を中心に地域に根ざした様々な社会貢献活動を継続的に行っています。また、グループ各社においても事務所近隣地域の道路清掃活動等を行っています。

●品川区立三木小学校で開催された「品川区民まつり」に従業員が参加し、食品販売や子ども向けアトラクションの受付を行い、地域の方々と交流を深めました。

参加者の声

人事部 後藤 亜里沙

今年も猛暑のなか行われましたが、地域の方々が何かと声を掛けてくださり、最後まで楽しくお手伝いすることができました。地域の方々や会社の皆で協力し、一つのものを創り上げる達成感は素晴らしく、また次回も参加したいと思いました。



●2014年2月、宮城県仙台市では積雪が35cmと78年ぶりの大雪に見舞われたため、従業員にて通学路の除雪作業を行いました。

参加者の声

東北支店 高橋 弘子

支店横の歩道は近隣の学校の通学路となっているため、安心・安全に通学できるよう、急遽雪かきを行いました。生まれて初めて体験する大雪で大変な作業でしたが、職場の皆と一緒に頑張ることができました。



JOT

日本石油輸送株式会社

お問い合わせ先

日本石油輸送株式会社 CSR推進室

〒141-0032 東京都品川区大崎一丁目11番1号

(ゲートシティ大崎ウエストタワー16階)

TEL.03-5496-7671 FAX.03-5496-7856

<http://www.jot.co.jp/>



この冊子は、適切に管理された森林から生まれたFSC®認証紙、植物油インキおよび有害な廃液の出ない水なし印刷で印刷しています。